

令和4年度農業委員・農地利用最適化推進委員等研修会の概要

県内の農業委員及び農地利用最適化推進委員等を対象に、農地利用の最適化を効果的に推進するため、東海農政局及び（一社）全国農業会議所と連携して、人・農地関連施策や農業委員会活動のガイドライン、農地利用最適化交付金等の改正内容とともに、これを踏まえた農業委員会活動のあり方、愛知の農業委員会活動活性化運動の重点取組の進め方、事例紹介等による研修を行いました。

1 開催期日、研修会場及び対象地域

区分	開催期日	研修会場	対象地域
東三河会場	9月9日(金)	豊川市文化会館 中ホール	新城設楽、東三河
尾張会場	9月13日(火)	名古屋文理大学文化フォーラム (稲沢市民会館) 大ホール	尾張、海部、名古屋
西三河会場	9月15日(木)	パティオ池鯉鮒(知立市文化会館) かきつばたホール	知多、西三河、 豊田加茂

2 参集者

農業委員及び農地利用最適化推進委員、各農業委員会事務局、愛知県農業水産局農政部農業振興課、各農林水産事務所農政課、(公財)愛知県農業振興基金等(688名)

3 あいさつ

主催者として愛知県農業会議川上会長(東三河会場)、尾張地域協議会近藤会長(尾張会場)、西三河地域協議会羽根田会長(西三河会場)から、農業委員会に関わる諸政策が大きく改正される中で、農業委員会がどのように農地利用の最適化活動に取り組んでいくかが課題となっており、本日の研修内容を現場活動に活かしてほしいとのあいさつがありました。

愛知県農業振興課は各会場に御臨席いただき、鈴木課長(東三河会場)、内藤担当課長(西三河会場)、上田課長補佐(尾張会場)より、人・農地関連施策の改正を踏まえて農業委員会への期待と激励のあいさつがありました。

また、愛知県農業振興基金の鈴木理事長(西三河会場)からは、農地中間管理事業の改正を踏まえて、農業委員会との連携をさらに深めていきたいとあいさつがありました。

4 研修内容

(1) 講演

東海農政局から農業委員会に関わる人・農地関連施策の改正のポイントに

ついて説明を行い、その後に全国農業会議所から昨今の農業・農政を巡る情勢とともに、人・農地関連施策や農業委員会活動ガイドラインの改正に対する具体的な取組方針について説明を受けました。

愛知県農業会議からは「愛知の農業委員会活動活性化運動」の取組状況と本年度の重点目標、重点課題の進め方について説明しました。

題名	講演者	主な内容
人・農地関連施策の 制度改正について	東海農政局	関連施策改正の背景について 農業経営基盤強化法の主な改正内容について ・地域計画（目標地図）の策定に向けた取組とその支援策（eMAFF 地図・タブレット端末の活用、事務負担軽減等）について ・新規参入促進、下限面積の撤廃について ・農地利用最適化に係る各種事業について
農業・農政を巡る情 勢と農業委員会組 織の活動について	（一社）全国 農業会議所	・農業・農村が直面する課題について ・人・農地関連施策の改正ポイント（多様な担い手、地域計画（目標地図）の法定化、粗放的管理の制度化（農山漁村活性化法）等）とその対応について ・ガイドライン改正に対する具体的対応策（日頃の活動記帳、情報共有等）について
農地利用最適化の 推進について（愛知 の農業委員会活動 活性化運動）	（一社）愛知 県農業会議	・活性化運動策定の背景について ・令和３年度重点課題の取組実績と評価について ・令和４年度重点課題の設定内容について ・重点取組（日常活動の記帳と連携強化、サポートシステム・タブレット端末の活用、目標地図の素案作成に向けて等）の進め方について

（２）事例発表・紹介

県内の先行事例として各会場で当事者から発表をいただきました。

ア 東三河会場

「新城市作手菅沼地区における地域まるっと中間管理方式の取組」

発表者：新城市産業振興部農業課 竹内参事

新城市作手菅沼地区では、アンケート調査の結果及び地図を元に地域の担い手、集落の役員等が、市、ＪＡ、農林業公社、農業委員会、農地中間管理機構等の関係者を交えて地域の将来の姿を話し合い、地域の合意に基づき、「地位の守るべき農地」を一括して農地中間管理機構に貸し出す『地域まるっと中間管理方

式』により、農地の担い手への集積を進めている。また、これにより得られた「地域集積協力金」は、ほ場整備（用排水施設の改修）に活用する一方で、今後の集落営農組織への準備金とすることとしている。

イ 尾張会場

「名古屋市中川区^{くまいでん}供米田地区における人・農地プランの実質化への取組」
発表者：名古屋市農業委員会 岩田会長

名古屋市中川区供米田地区では、地域の農家へのアンケート（令和2年1～2月）、担い手候補への耕作意欲の聴取（同8月）を経て、地域の農業者、農業土木委員、農業委員・推進委員、担い手候補者、JA、県、農地中間管理機構及び市による話し合いを〇回開催（同9～11月）した。令和3年1月に関係機関の代表らによる「名古屋市人・農地プラン検討会」を開催し、翌2月に同地区の「人・農地プラン」として担い手農家と自作希望者のエリア割りが合意され、これに基づいて農地中間管理事業により担い手へ農地集積がされ、翌3月から耕作が始まっている。

イ 西三河会場

「みんなを笑顔でつなぎたい ～都市農業を活かして～」
発表者：NPO法人かきつ畑♪（知立市） 松宮監事

NPO法人かきつ畑♪は、令和2年10月に知立市において、都市農業の持つ「交流創出」「食育・教育」「地産地消」の機能を活かし、「農」と住民をつなぎ、将来的に「農」を絶やさないまちづくりを進めることを目的に設立された。農産物の6次化（ローゼルの特産化）、生産者と消費者の交流（農マルシェの開催）、農を通じた学びの場の創造（地域住民による体験農場の運営）、学校連携（小学校内に「田んぼを作るプロジェクト」等）など多角的な活動を展開している。

<研修会の様子>

■東三河会場（9月9日 豊川市文化会館）



開式の様子



主催者あいさつ 川上会長



来賓あいさつ 県農業振興課 鈴木課長



講演 東海農政局 隅田課長補佐



講演 全国農業会議所 佐藤部長

■尾張会場（9月13日 名古屋文理大学文化フォーラム）



開式の様子



事例発表 名古屋市農委 岩田会長

■西三河会場（9月15日 パティオ池鯉鮒）



研修会場の様子